



『トクシマ・アンツアイガー』

第2巻

第2号

徳島 1915年10月3日

戦争と技術（1）

先頃行われた演説でイギリスの軍需大臣ロイド・ジョージは、ドイツがこれまで連合国を上回る成果を挙げたのは、鉄鋼産業の優位性のお陰である、との見解を述べた。

「技術の戦い」は、今次の戦争との関連でほとんど常套句になった。

しかしこの戦争における我々の成果は、専ら我々の優越した技術のお陰ではなくて、全ドイツ人の能力と知識、我々が全ドイツ民族の一致した力を動員する術を我々が心得ていた、というその状況のお陰である。

このことをしっかり認識している我々は、我々の技術が戦場での成果で疑いもなく見せている偉大な功績を過小視するつもりはない。かつてのいかなる戦争においても、技術の成果の賜物が、今次の戦争におけるほど大きな役割を演じたことはなかったことを、我々は充分承知している。

敵にとっての最大の驚きの一つは我々の 42 センチ臼砲で、その砲撃には今まで、最新の要塞でさえ持ちこたえることが出来なかった。その後少し前に、今までまだなかったような距離まで届く、大口径平射砲についても報告された。

両方とも、我々の古い軍御用達商フリードリヒ・クルップ商会のお陰である。クルップ社は既に大砲や鋼板等の製造工場で、全地球上での指導的な地位を獲得した。この戦争で初めて、ある新しい武器が性能を証明する機会を得た。即ち潜水艦である。

これは既に 1 世代前から取り組まれてきた発明である。終にそれは一人のフランス人技術者によって実際に使用しうる潜水艦の建造に成功し、最初に戦争目的のために建造させたのは彼の祖国であった。他の国の艦隊が既にかかなりの数の潜水艦を所有していたのに対して、ドイツでは延々とした試みで満足し、我々の政府が初めて潜水艦の建造に歩みだしたのは、多くの実験を手がかりにして、本当に価値のある武器が作り出せるとの確信を得てからだった。我々の潜水艦の業績については、こんにち最早何も言う必要はあるまい。

それは充分世間に知れ渡っている。また我々は今日にはアイルランドの西、明日には地中海、明後日にはノールカップ岬¹で敵の船が沈められることを、今ではほとんど自明の如くに受け止めている。我々の最新の潜水艦は全て、もう長いこと商船や軍艦の建造で名声を勝ち得たドイツのドックで建造されている。ここでは帝国の諸ドック、ヴルカーン株式会社、ボーム・ウント・フォス株式会社、ゲルマニア・ドック株式会社、F. シッヒヒャウの名のみを挙げておく。

まだそれほど時間は経っていないが、夢物語であったのがそれほど昔のことではないような、ある全く新しいものをこの戦争は我々にもたらした。空中戦である。多分、飛行船と飛行機ほど、最初から一般的な関心を引き起こして追求された発明は少ないであろう。人間が鳥と同じように空を飛

1 ノールカップ岬：ノルウェーのマゲレ島のヨーロッパ最北端の岬。

べれば、という考えは太古からのものである。しかしその考えが実現したのはほんの数年前のことである。最初の飛行機を組み立てた名誉は、アメリカ人とフランス人に帰するが、飛行船はドイツ精神のなせる業で、ドイツ人なら誰もが誇る一人の男、ツェッペリン伯爵のライフワークである。

飛行船の中に積んでいるある道具によって、着陸しなくても我々には、イギリスによって引き起こされた戦争の恐怖の何がしかを、そのイギリスへもたらすことが可能である。飛行船の爆弾によって何らの決定的な損害も被ってはいない、とイギリスが絶えず主張しようとも、我々は中立的な情報源を通して、そうではないことをずっとよく知っている。ツェッペリンは既に戦争前にイギリスにとっては恐怖であったし、その恐怖は多分ずっと続くことであろう。敵国への進攻を除くとツェッペリンは、偵察と我々の艦隊の護衛の面で大きな価値がある。フリードリヒスハーフェンのツェッペリン航空機工場船渠から多くの誇らしい飛行船が生まれた。

ツェッペリン・システム以外に、我々の軍司令部はシュッテ＝ランツ、パルゼヴァール等々のシステムの飛行船をもっている。

つづく

日本の陶磁器（２）

肥前地方は昔からとりわけ磁器生産の主要地域として揺るぎなく、その製品は疑いもなく最良のものに属する。唐津市（福岡の西方）にちなんで、南の地方では磁器は唐津物とも呼ばれるのが常である。ヨーロッパとの最初の交易が結ばれた時、この地方の磁器はほとんどもっぱらオランダ人やポルトガル人によってヨーロッパへ輸出された。

オランダ人が唯一の交易権をもち、また日本がその他では外国から閉ざされていた後にも、オランダ人は 1641 年から 86 年にかけて、毎年 100

バレン²もの大量の肥前磁器を輸出した後になってもオランダ人は唯一の交易権を持ち、日本がその他で外国から閉ざされていた時に大量の肥前磁器を輸出した。その量は 1641 年から 86 年にかけて毎年 100 バレンに達した。ヨーロッパで古い日本の磁器とされているものは全て、取り分け金や、青や、赤で彩色された花や鳥の絵柄の繊細な白い作品は、ともかく肥前に由来する。それは勿論確実に証明される訳ではない。というのは古い日本の磁器は一般に、製造元の印を何も施していないからである。日本の磁器はヨーロッパでは喜んで買い求められていた。最大の収集家の一人はポーランド王にしてザクセン選帝侯アウグスト二世だった。

選帝侯はドレスデンの日本宮殿を磁器で飾り立てた。その収集品は大部分保存されている。

外国との交易のために再び開国したことが、結果的に磁器輸出の増大となった。高まる需要は窯元の活発な活動を引き起こした。窯元はその製品を一層外国の趣味に合わせ、船荷は全てヨーロッパとアメリカへ運ばれた。

近年、肥前では次のような種類の磁器が生産されている。彩色や金を施された、通常の厚手の白い磁器、次に優美で見事に線描された薄地で半透明の磁器、色彩は繊細な色調で、この場合は大抵小物だけが製造されている。

それ以上に実に驚嘆すべきは「卵の殻のような磁器」である。多くの作品は実に薄くて、どうやってそれらを土で捏ねて、その後壊さずに焼くことが出来るのか、驚かすにはいられない。そのような作品の製造では、日本におよぶ国はない。四番目は様々な絵付けを施されているものである。それは冷たい灰色の色調と荒いひび割れを有している。最も近代的であるが価値の少ない製品は、いわゆる長崎物である。それらは花瓶、食器セット及びそういう類のものである。丹念な仕上がりではあるが興趣に欠け、くすんだ色で彩色され、けばけばしい赤、水色の青と明るい緑が支配的である。ひとえに安価な品を求めるヨーロッパ商人の活発な需要が、これら

2 100 バレン：樽や箱ではなくて、商品を包んで縛った梱や俵による数量単位。

の非芸術的な製品を出現させている。

つづく

日本の秋

我々は秋と冬の寒い季節にますます近づいている。我々の誰もがこれまでの暑さの後で、多分ずっと涼しいこれらの日々にはっと一息ついて、美しい秋の日を存分に享受することだろう。有名な美しい桜が咲き誇る春を除けば、おそらく秋は日本では最も快く美しい季節だろう。日本の山々の森は、数多くの種類の木々や灌木が色鮮やかに混じって構成されていて、この時期には色とりどりの死装束を身に着ける。森は葉を落として冬の眠りに就く前に、もう一度その極めて美しい豪華さを見せる。

我々はかつての愛すべき友、信号山³が既に秋の装いをしているのを見る思いだ。その信号山の麓では、実に頻繁に「熱い」スポーツが戦い抜かれたのだった。残念ながらこの地方には楓の木がほとんど全くない。楓は普通なら日本の秋の風景に、実に豪華で輝かんばかりの色彩を与えるものだ。瀬戸内海を通過する航海が思い起こされるが、それから今やまもなく一年が経つ。当時、我々は晩秋の中を、絵のような岸边と木々に覆われた無数の小さな島々の間を通り抜けてやって来た。それらは美しい、色彩豊かな姿を見せていた。この時の多くの者達は確かに、これらの印象を充分享受し、我が身の中に受け入れる気分ではなかったのであるが。

自然の美しさにおいて遥かに恵まれている祖国ドイツに再び戻れる見込みがあれば、今日でも多分誰もが、日本の自然の美しさを諦めるのにやぶさかではないだろう。しかし当面我々はこの自然の美しさを、この困難

3 信号山：徳島城の城山を、信号所があった青島（チンタオ）の山になぞられて呼んでいたと思われる。

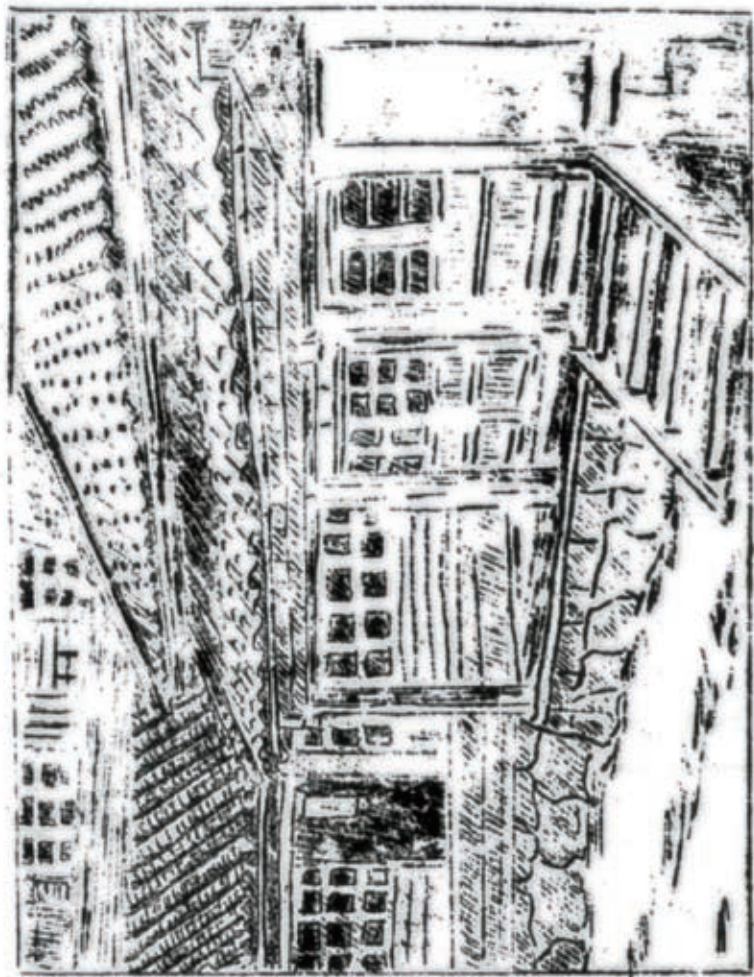
な時期の心地よいおまけとして楽しまねばなるまいし、また楽しもうではないか。

リヒャルト・ワーグナー（2）

同じ 1833 年、リヒャルト・ワーグナーはヴュルツブルク劇場の宮廷指揮者になり、かくして舞台生活とのより密接な関わりへと踏み出した。就任先は目まぐるしく変化した。

1834 年のマゲデブルク劇場では、最初の妻にして一座の悲劇のヒロインであるミンナ・プラウアーと知り合った。1839 年にケーニヒスベルク、その半年後にはリーガと移り変わった。知られる事のぐっと少ない初期のオペラ『妖精』及び『恋愛禁制』、オペラ序曲『コロンブス』及び『ルール・ブリタニア』が成立した。

劇場の人間達との交際を通じてワーグナーは、彼が名付けたところの「メーキャップした喜劇役者のあり方」を知ったが、それにも関わらずそのことが彼をパリへと惹きつけ、そこで彼はある大きなオペラで、マイヤーベアーが成したと同じ幸運をつかもうとした。オペラの作曲者はそこでしか名声を得られない、と彼は信じた。かくして彼は大胆かつ無思慮に、哀れな妻と恐ろしく大食いのニューファンドランド犬と、そして僅かな金を持って嬉々とした希望を胸に出かけて行った。しかし、好意的に受け入れてくれたマイヤーベアーの支援にも関わらず、彼は何の幸運にも恵まれなかった。『愛の禁止』と『リエンツィ』を持ち出す空しい努力をした後に、レポーターやピアノ用のスコアを書き、フランス語のテキストによるオペラ・歌曲・ロマンスの様々な楽器へのアレンジによって生計を立てざるを得なかった。その際 1841 年春に彼は、『さまよえるオランダ人』を書いてドイツの劇場に送ったが、同じように不首尾に終わった。ミュンヘンからはそのオペラはドイツには相応しくない、とのコメント付きで送り返され



収容所風景

その8

てきた。

彼はある職業、すなわちジャーナリストだったことがあるにもかかわらずこれを後に激しく憎悪し、自分の不成功でパリを憎んだにも関わらず、そのパリは彼を絶えず惹きつけた。1842 年になって初めて彼はドレスデンに赴くためにパリを去った。ドレスデンではその年に彼のオペラ『リエンツィ』が上演された。それは成果を収め、ワーグナーはドレスデン宮廷劇場の楽長になった。1843 年には楽長として、彼の『さまよえるオランダ人』を自ら指揮する喜びを得た。同年、彼は『タンホイザー』の作曲に取り掛かったが、彼が言うには、それは『現代世界』が彼に示すことの出来ない「最高の、精神的、感覚的な享受」への激しい欲求から出たものである。こうして彼はつまり幾分神話の世界へと転換した。

彼の理想主義はドレスデンでの何年にも亘る活動時期の間にも、彼にオペラ芸術改良へのイニシアチヴをとらせた。かくして彼はザクセン文化大臣にドイツ国立劇場設立プランを提示した。演劇と歌唱及びオーケストラの学校が、有能な芸術家の後継者育成に与るはずだった。純粋に芸術的な諸問題が、創造的にして描写的な芸術家全員の前で審議されるはずだった。彼の意図は問題なく優れていた。しかし劇場監督は当然気分を害し、結局は国王に、宮廷劇場を民主的な芸術管理による国民施設に変えるようにとの提示を充分に行うことが出来なかった。

そんな訳でワーグナーは、1848 年に革命が起こった時に国家にとっての危険人物のリストに載り、1849 年 3 月の無意味なドレスデン蜂起の後に逃亡しなければならなかった。長いこと重荷になっていた足かせからの解放という快感もなかったわけでない。彼は差し当ってリストの元へ逃れた。リストは彼にとってその死に至るまで忠実な友となり、助言者となった。再三にわたってリストは追放された友人のオペラを上演して、徐々に彼の真価を人々に認めさせ、再三に亘って金銭的に困窮する友を支えた。

こうして彼は 1850 年に『ローエングリン』を上演させ、ワーグナー自身もその間に出来上がっていた『トリスタンとイゾルデ』を上演すべく

パリに赴いた。

コンサートによってその収入が得られる事になったが、彼には理想的な上演が念頭にあった。かくして彼は『トリスタンとイゾルデ』、『タンホイザー』及び『ローエングリン』の上演のために、ドイツ人歌手、合唱団員や演出家までパリに来させようとした。しかしコンサートは大赤字をもたらしたただけだった。それにも拘らず、ナポレオン三世の元にいた芸術心があり、エネルギッシュなメッテルニヒ侯爵夫人はオペラハウスで『タンホイザー』の上演を遂行した。ワーグナーはパリのためにそのオペラのかかなりの部分を変更し、より官能的に形作り、ヴィーナスの丘でのバレéの場面を更に推敲したのは、パリ市民の好みにより近づくためであった。

しかしながら彼は、第2幕の中心にバレéを移すことを断固拒絶した。実は第2幕になってやっと劇場に来るのがフランスの一般社会の習慣であり、またそれを要求していた。ワーグナーがそれに応じないと、高位の世襲貴族ガリアンは笛と騒音を立てる道具を身につけて、笛を鳴らし、喝采の声を押し殺そうとがなりたてた。声高な意見は観衆を笑わせることとなり、二度目の上演の後、聴衆は一斉に反発して、「騎手どもは出てゆけ」—その貴族グループは「騎手たち」と呼ばれていた—と叫ぶと、この騎手たちは三度目の上演には金で集めた笛を鳴らす連中を送り込んできた。かくしてワーグナーは彼のオペラを引っ込めた。

1860年までワーグナーにとっては多くの貴族階級の人物達の支えにもかかわらず、ドイツからの追放の撤回を働きかけることは叶わなかった。ザクセン王国首相は、彼が国家と芸術における改革に関心を抱くのを大目に見ることが出来なかった。1860年になってやっと彼はザクセンを除いてドイツに戻る事が許された。

つづく

1915 年 10 月 3 日の第 21 回コンサート

演 奏 曲 目

- | | |
|---|-------------|
| 1) オペラ序曲『後宮からの逃走』 | W.A. モーツァルト |
| 2) 「春の歌」 | メンデルスゾーン |
| 3) 「リーゼロッテ」 ガヴォット | v. アダム |
| 4) 「どういたしまして」 フランス風ポルカ
『ウィーンのカリオストロ』より | J. シュトラウス |
| 5) 「風へ、陸へ、海へ」 行進曲 | フォン・シュタイン |
-

ミ サ

久しぶりに 一夏の数ヶ月の暑さが宣教師達の旅行を妨げていた—
我々は今日喜ばしいことに再び宣教師シュレーダー博士にお目にかかれ
る。師は我々の元で再びミサを執り行うことになる。合唱とオーケストラ
が再び力の限り祭を麗しくし、またそのことによって同時にシュレーダー
博士にわれわれの感謝を表明することに寄与するであろう。博士は我々の
ために骨の折れる長旅という苦勞を果たすのであるから。

チェス・コーナー

(駒の略語 K = キング、D = クイーン、L = ビショップ、
S = ナイト、T = ルーク、B = ポーン)

第 47 問の解答

1. Td1 - d4 任意に
2. S. L. od T で詰み

第 48 問の解答

1. Te3 - g3 任意に
2. Tg3 - g7 „
3. D.h2 - e5(d6, c7, b8) ≠

正解：ヨーゼフ・ヴェーバーとベーマー

K.B. 氏の第 48 問の解答は、1…a5 - a4 で詰むことができない。

第 47 問は、これまでいつも二問のうち第一問がそうであったように、二手で詰める。

第 49 問

白：Ke1, Td3, Lf7, Sd4, c6, Bf2, g4

黒：Kc4, Lc2, Sf8, Bc3, f4

2 手詰め

第 50 問

白：Kh2, Db8, Ta4, Lg2, g7, Sd4, Bc6, ???

黒：Kc3, Tc1, La1, d4, Sb1, e2, Bc2, ??, c4, c5, d2, h3

3 手詰め

投 書

私の 42 歳の誕生祝に当って、私に幸福と祝福を寄せてくれた全ての人々に良きことがありますよう。特に朝、美しい歌を繰り広げてくれた我々の合唱団に、皆に好かれた指揮者たちに、私にも贈りものをくれ、私の机を花で飾り、それによって私の老いた国民軍魂を元気づけてくれた全ての友人たちに、私の心からの感謝を捧げる。

ペーター・シンメル



シュピーゲル（鏡）

1915 年 10 月 3 日

『トクシマ・アンツァ

イガー』第 2 巻

第 2 号へのユーモ

ラスな付録

『トクシマ・アンツァイガー』は今やその特派員を前線に派遣し、その最初の見事な撮影の成果がちょうど到着した。

戦場での我々の通信員

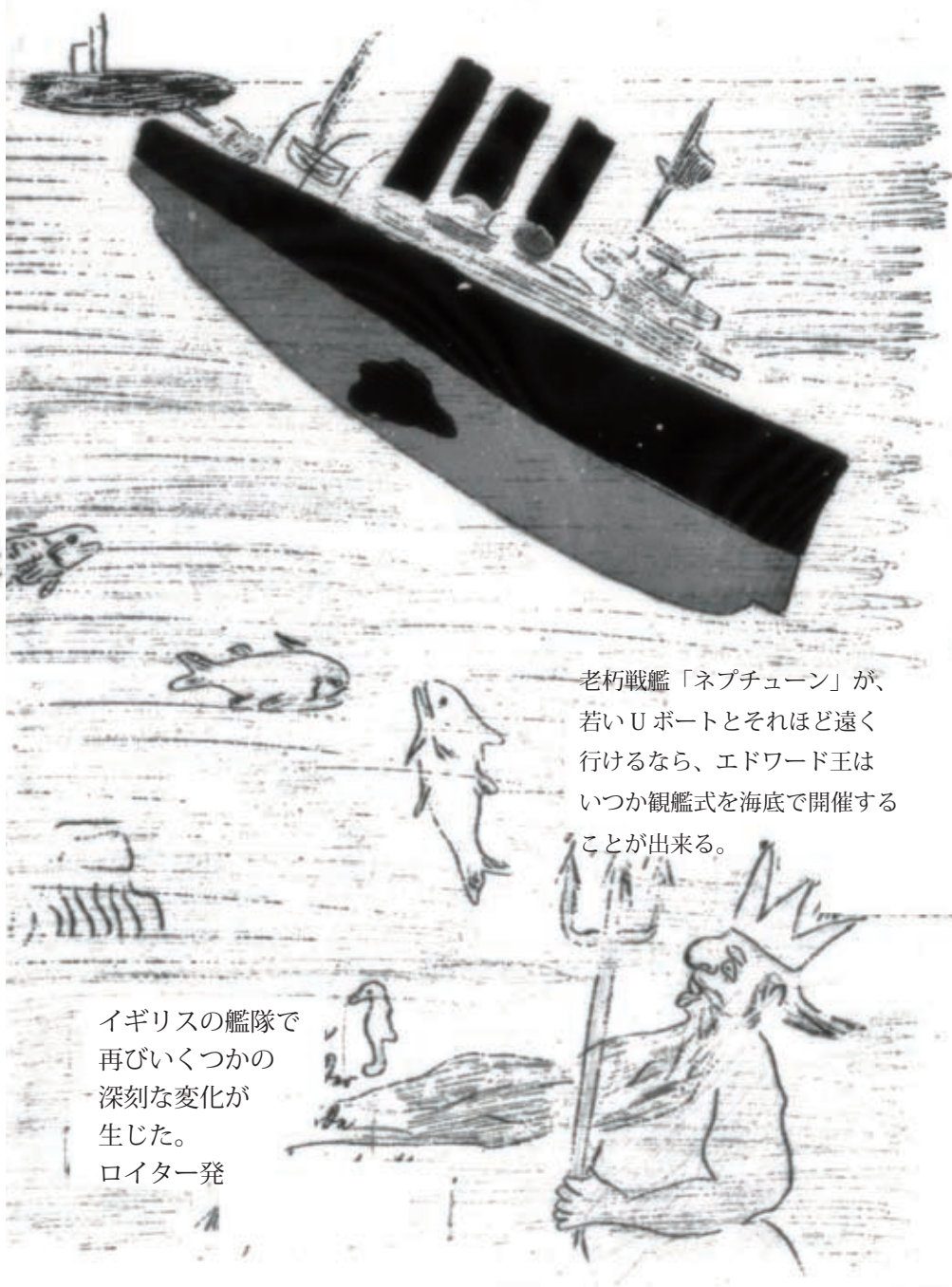




ロンドン情報：ドイツ人の高邁な計画はロンドンでこのような印象を与えている。

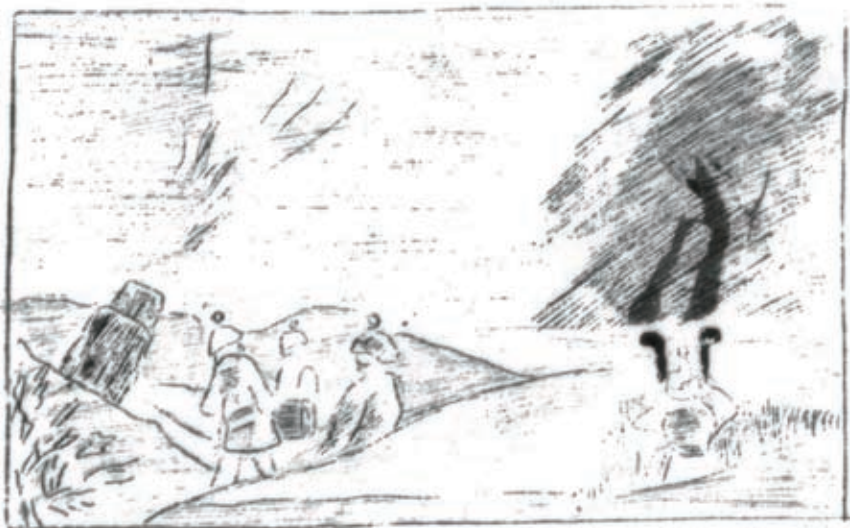
イギリス人達がもういい加減にドイツ人を追い払ってしまいたい丘の写真



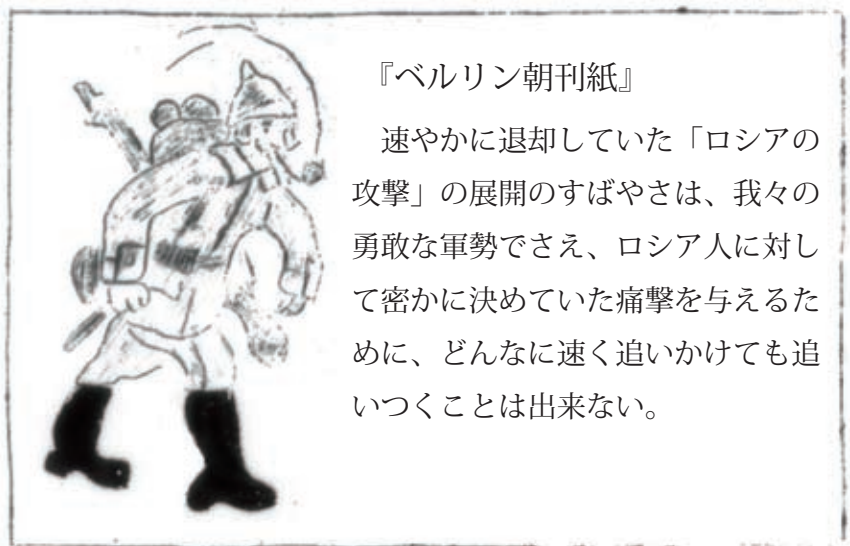


老朽戦艦「ネプチューン」が、若いUボートとそれほど遠く行けるなら、エドワード王はいつか観艦式を海底で開催することが出来る。

イギリスの艦隊で再びいくつかの深刻な変化が生じた。
ロイター発



ロシア人がポーランド人の任務に
仕向けている「戦略的」根拠の写真。



『ベルリン朝刊紙』

速やかに退却していた「ロシアの
攻撃」の展開のすばやさ、我々の
勇敢な軍勢でさえ、ロシア人に対し
て密かに決めていた痛撃を与えるた
めに、どんなに速く追いかけても追
いつくことは出来ない。



*Die Feldpostbriefe des
Gefreiten Knechtke.
von
G. Mühlen-Schulte.*

クネチュケ一等兵の野戦郵便

G. ミューレン = シュルテによる

我々は今日から一連の連載付録を始める。その中で我々は読者諸君に、料理女のアンナ・クヴァックテュプフェル＝ノイケルンに宛てたクネチュケ一等兵の野戦郵便を披露する。それらの手紙は、ベルリンの『娯楽雑誌』社から出版された G. ミューレン＝シュルテ編著の小冊子から転載したものである。

編集部

手 紙 (1)

フランスの H. にて

愛するアンナ！

つまり地名を H. としたのは、我々がいま企てている戦略のために、僕の滞在地は公表されてはいけないのだ！すると君は考えるだろうね。「ぐうたらな人ね。たぶんナミュル⁴近郊で食らった、しけたちっぽけな擦過弾で相変わらず野戦病院で寝ているんでしょう。それで H. なんて書いてるんだわ。」でもそれは違う！いや、ほとんどそうとも言える。何故なら軍医は僕に恨みを抱いていてこう言った。「クネチュケ、心配することはない。野戦勤務能力はある、などと。」僕には約二週間まだここにいられるんだ！それじゃ勿論臆病者だ！僕は石炭兵営から他の二人とつまみ出された。それで軍用パン自動車でそれ行けフランスへさ。そんなことで今僕は再び連隊の真っ只中にいて、そして塹壕の中で横になっている。君たちの家での羊を追いやる壕と同じようなものを想像してはいけない。そこでは菜園地帯を貫いて水が流れ、それで君たちはキャベツを洗う。そうではなくて、それはありったけのシャベルと銃剣を備えた戦略的防御地だ。何故なら敵はぐうたらではなく、そもそもこっちの誰ひとり求めているときに砲弾を撃ち込んでくるのだから。

4 ナミュル：ブリュッセル南東約 50 キロの都市で、交通の要所。

愛するアンナ！で僕は君にここですぐさま言わねばならないのは、レーマンとこのヴィリーが獲得した鉄十字ではもはや騒ぎ立ててくれるなということだ。それを僕はいま同じように持っているし、それがそれほど重くないことを充分過ぎるほどに知っているからだ。何故なら僕は手榴弾を一つ持っていた。というのもぼくは、飛んできたけどしばらく不発だった砲弾を、塹壕から運び出して、小川に捨てたからなんだ。その手柄で鉄十字賞をもらったんだ。その手榴弾はぎりぎり 50 ポンドしかなかった。でも僕は普段は僕の 2 ツェントナーを枝に掛けている。これで君は多分例のレーマンとこのヴィリーもぼくと大して違わないと感じるだろう。それにもはやそれでそれほど騒ぎ立てたりはしないさ。というのも僕は勲章をもらったからと言って取り立てて何もありやしないと知っているからさ。

ところで君に伝えなければならぬことは、塹壕でも時おり生活上の厳しさが生じることだ。何故なら野戦用炊事車が来られなくて腹ペコのおなかを抱えるとなると、笑いごとではない。この炊事車には煮炊き用の深鍋があって、ベーコンとえんどう豆をその中で煮て、そしてそれから車輪が動き出す。利点はだらりとさせている背囊を置くための車のまえの部分だ。またそこには携帯食料もある。調理は後方でするんだ。ナポレオンが述べたように、これは戦術的にとても重要だ！軍隊は汝の胃袋とともに進軍する！でももう彼は死んでいるそうだよ、と第 2 小隊の一年志願兵は言っている。

愛するアンナ！もしこのことを見たら君は驚くことだろう。でもかつかと燃えることはない。僕たちは全部フランスの家畜を喰らっていて、屠畜係の考えでは、イギリスの豚をもっと供給するということのだけれど、僕たちはまだそこまでは至っていない。ところで君はひょっとすると野戦用炊事車はいいと思っているだろう。でもやって来ることが出来なかったら？その時は蕪を地面から引き抜くんだ。でも君が刈り取った干草の上に寝ていれば、今度引くのは僕の友達だ。中尉殿がこう云った。クネチュケ、今は戦略的状况から、我々は道草を喰らってはられない！中尉殿、クネチュ

ケは何のためにいるんですか、と僕は言った。それから僕は虎のように放たれた。しかしもうかなり暗かった。それでまあすぐに言うんだけど、僕はあるフランスの塹壕に転がり落ちた。塹壕なんてどれも似たようなものだ、と君はもしかすると口にするかもしれない。しかしその塹壕は広々としていて、地下壕には歩哨をしていた三人のアルジェの歩兵しかいなかった。そしてこいつ等はこの目的のために、豚腹の肉片を銃剣に突き刺して火にあぶっていた。そこへ僕がやって来てこう言った。戦略的優勢はわが方にあるから、その豚腹を僕に渡してはくれないかと。しかし一人はもはや返事をするには出来なかった。僕がそいつの身体を踏みつけていたので。他の二人は両手を高く上げて、パルドン・ムシューと叫んだけれど、君には分からんよね、フランス語だからさ。もちろん僕は手当たり次第にわめき散らして、返答したさ、さあ、行こう！と。こうした言葉のやり取りの後、焼いた豚ともどもアルジェ兵と我々の塹壕へとって返し、そして中尉殿はこう云った。クネチュケ、これは見事な代物だ！しかし彼はそれについてはあまりよく分っちゃいない。なにしろそれはなんの腹の足しにもならないものだったから。

愛するアンナ！この手紙をスパイに見せないように、君に警告して締めくくりたい。何故ならスパイのやつらは恥知らずで、昨日初めて一人が殺された。君にこのことを特に願って、君にキスを送る。心から愛している

ハインリヒ・クネチュケ